



FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称です。本学では、授業アンケート、FD研修会など、各種FD活動を実施しています。

今回は、2025年度活動実施内容等についてお届けします。

『FDニュースレター』は、年次報告として、FDに関する情報を取り纏め、情報を共有することにより、それぞれの活動を組織的な活動へと発展させるための一助として発行しています。

2025年度 活動計画

FD等の実施

（※組織的なFDとするために、各種委員会と協働して開催）

☆春学期は2025年5月31日（土）に全学教員協議会、
7月19日（土）に春学期FD研修会を開催しました。
秋学期にも以下の取り組みを計画しています。

☆秋学期全学FD研修会 （詳細については今後周知）

☆大学院FD研修会 （詳細については今後周知）

大学教育学会への参加

☆大学教育学会大会（6月）及び課題研究集会
（11月）への参加者の募集を今年度も行います。
開催後、参加教員による報告会を行います。

各種自主FD活動の支援

☆学科会議や基礎ゼミ・語学科目の担当者間で行われる各種意見交換会や打合せ等、教員間で自主的に実施される、FD活動及び教育改革に関するプロジェクトについて支援を行うとともに、実施後に提出される報告書を取りまとめ全学的に情報を共有しています。

学生による授業アンケート(Web形式)

☆今年度も各学期末に実施します。

学生による授業アンケートでは、科目毎の選択質問項目の集計結果（詳細）を『学生による授業アンケート結果』（冊子）にまとめており、図書館で閲覧することができます。

また各教員にアンケート結果をフィードバックし、各自の所見・改善点等を記入するコメントシートを作成しています。

新規採用教員説明会

☆新任教員に対し、本学の建学の理念や教育研究に対する考え方、ディプロマポリシーの説明など、本学の教員として必要な事柄等に関する説明会を毎年度4月に実施しています。

公開授業

☆例年同様、公開授業を実施する予定です。複数コマ開講されている同一科目について、その担当教員間の相互授業参観のあと、授業運営手法や評価方法のすり合わせなどを実施します。

春学期FD研修会

2025年7月19日（土）に春学期FD研修を開催しました。当日は、教員48名・事務職員2名が参加しました。当日参加できなかった教員も後日動画視聴を行うこととしております。

①FD講演

「高校生の現状と高大接続」

二松学舎大学附属高等学校 教務部主任・ICT推進委員 楯岡卓 教諭

②FD講演

「これからの二松高大連携」

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校 教務部長 武捨君彦 教諭

【春学期FD研修会を終えて】

講演会後の意見・感想の中からいくつかを紹介します。

- ・現在の高校生たちが「プレゼンはなかなかうまくいけれど基礎的な知識の獲得に難がある」という点に、非常に共感しました。
- ・高大接続における課題として、学習指導要領で挙げる「主体的・対話的学び」と、現実問題の「基礎的な知識・技術の獲得」、「深く学ぶ姿勢の養成」というあたりの折り合いをつけて両立した指導の難しさがよくわかった。
- ・高校生のアクティブラーニング等への取り組み方を知ることができ、大学での授業への連携方法を考えさせられる良い機会となった。
- ・中高でスマホやSNSにどっぷり浸かった生活を送ってきた学生に、自ら考える姿勢を身につけるきっかけを大学ではどのようにしたら増やせるのかを考えなければならぬと強く思った。
- ・附属高校での教育方針等は漠然としか知る機会がなかったので、これらを知る良い機会となった。
- ・評定インフレについて理解が進みました。
- ・最も衝撃的だったのは、「知識技能・思考判断表現・主体性の3観点別評価になったことで、結果的に主体的に育まれにくくなった」というご報告であり大変役にたった。

昨年度（2024年度）学生による授業アンケートについて

2024年度秋学期に行った「学生による授業アンケート」結果に対する授業担当者のコメントシートから、授業改善への取り組み事例を抽出して、大学全体レベルでの授業改善の取り組みとして共有しました。アンケート結果のフィードバックは、授業担当者にとって学生の学修成果や意欲を向上させるヒントを得られる重要な機会となっています。

以下、授業担当者のコメントシートから一部をご紹介します。

なお、2025年度の授業アンケートの実施にあたっては、このアンケートが学生自身の学修の振り返りや今後の授業改善のために重要であることを、あらためて学生に説明して理解を促し、更なる回答率向上に努めます。

2024年度秋学期授業アンケートにおいて、教員からのコメントシート提出数（回収率）は、専任教員：36名（52.2%）、非常勤教員：89名（53.9%）でした。

本学は教員間のコミュニケーションが多い大学であると思われる。それにより、学習に躓いている学生の状況等様々な情報が（問題のない範囲で）共有されており、柔軟な学生対応が可能になっている。

学生たちに伝える際には、わかりやすく伝えることはもちろんのこと、そのことを伝える意図、目的、ねらいを、今まで以上に丁寧に、細かく伝える必要があると感じました。

学生がクリアできそうな毎回の授業到達目標を明示し、その目標をクリアしてもらうことによって、授業に対するモチベーションを高めるような授業運営を心掛けます。

学生に、授業毎にリアクションペーパーに学習内容に対する感想や、疑問、質問を書いてもらい、次の授業時にその内容に答えていった。